



避難所での保健活動が発表された集会

避難所での活動語る

前橋 宮城の保健師が講演

県小児保健会(荒川浩一会長)の総会と研究集会が25日、前橋市の群馬会館で行われ、東日本大震災の被災地である宮城県の保健師2人が震災時の保健活動について講演した。

講演したのは、宮城

県保健福祉部健康推進課の小泉みどりさんと

同県東部保健福祉事務所の宮川暁子さん。小

泉さんが被害状況や保健活動の概要を説明し

た後、宮川さんが避難

所での活動内容を講演

した。

宮川さんは、さまざま

な人が生活する避難所では病気やストレスを招かないための衛生管理が大切、と説明。

①土足厳禁②トイレ内では専用の履物を使う③掃除を定期的にする

「などの注意事項をまとめたマニュアルを製作し、被災者への周知を徹底したことに触れた。

今後の課題については「仮設住宅入居者の孤立防止など新たなコミュニケーションづくりが重要になってくる」と話した。

研究集会は小児保健関係者の交流と知識向上を目的に毎年開催されている。